

討論メモ

「天候不順と食料危機」

令和8年9月15日

森田晃司

1. 当月は、下山健夫さんに、頭書についての問題提起をいただき、下記の内容について状況説明がありました。

- ① . 天候不順（干ばつ）

気候変動による気温上昇と蒸発量の増加

雨の極端化

エルニーニョ減少の強大化

水の過剰利用

世界は「水破産」の時代へ

- ②. 食料危機

干ばつによる減産

世界的な供給減少（小麦、トウモロコシ、大豆など）

輸出規制

日本の買い負けリスク

嗜好品の高騰（コーヒー、カカオ、砂糖）

- ③. 対策

灌漑の整備、干ばつ耐性品種の育成

国際協調による食料市場の安定化

備蓄制度の強化、調達先の多角化、スマート農業の推進

ローリングストック、水の備蓄

2. 続いて出席者6名による自由討論に移り、下記のような意見が出されました。

- ・食料の安定供給には、世界平和が必要だ。

- ・食糧価格の高騰はすごい、異常現象だ。日本はまだ、比較的安定しているほう

だ。

- ・ コメの価格は不安定な値動きが続いているが、政府の介入は少ないほうが良い。

- ・ コメの安定供給は日本の食糧政策の基本だ。政府は農家を保護し、安心して生産に励める体制を作るべきだ。

- ・ 石破内閣でコメの増産が打ち出されたのに、現内閣はあっさり方針を変えてしまった。

- ・ 昔は、旅に出るのにコメを持参するほど、大切なものだった。

- ・ コメは配給制度に戻したらどうか。

- ・ 近年、日本の農業規制が外資の圧力で緩められている。日本の食の安全は昔語りになっている。国民は注視すべきだ。

- ・ 農村の過疎化、高齢化が進んでいる。若者に魅力ある職業にすべきだ。

- ・ AI の進化で、人余りが心配されている。第一次産業に人が流れる政策を推進すべきだ。

- ・ 製造業を重視して、農業を犠牲にしてきたが、今こそ、第一次産業を重視する政策転換を行う時だ。

以上